

… 雨でも休まず：第141回～第143回 …
「若柳・嵐山の森」から

- 定例1：10月 2日 (第一土曜日)：森林整備に注力：参加費300円
- ◎臨時1：10月 11日 (第二月曜・祭)：甲州古道・小原の森視察
 - * 9時00分、JR高尾駅前集合／「小原本陣の森」と「甲州古道」視察。車で来る仲間は、駅前駐車場に預ける。参加費ナシ。
- 定例2：10月 17日 (第3日曜日) 里山交流の森：参加費500円
 - * いよいよ、間伐の季節。今の森は、手強いぞ。
- ◎臨時2：10月 31日 (第五日曜日) 緑のダム学校：参加費300円
 - * 終了後、「知事と語ろうミーティング」、於：交流センター

- “必ず申込” ボランティア保険等。T&F 03-3411-1636
 - * 初参加：JR相模湖駅前：9時15分まで。090-7260-8101（緑のダム）
 - * 服 装：汚れて良い格好、着替え。 着 足元の滑らない履き物。
 - * 持 参：保険証の写し。飲料水は絶対…熱射病が怖い。

この製品の代金は何か

… 每月、第二火曜日の世田谷の松山仲間お店(櫻)の製品開発会議での話 …

捨てている間伐材の木端で兼松人形やベンチを作ったり、落ちている栗を拾って売り活動費の足しにしている。今月、県／企画部の主催する「やまなみ五湖キャンペーン」でも売る。森の仲間のボランティアだから労務費も掛からないしクギなどチョットした物も自前持ち込みだ。だから、原価がない。

原価のない製品がお金に変わっている。これは商品だろうか。無償・善意の原価の無いものに支払われるお金は、売り上げ=代金なく支援金では無かろうかと言う疑問だ。次のイベントでは、茹で栗を「一袋：100円」で売ろうと思うが、値札に「100支援金」あるいは支援金をもじって「100、ジン」あるいは「100 Forest」と書いてみようかなどと言っている。どう思います？。

● 活動報告1／9月 4日（第一曜日）：森林整備

前日、午後6時からの津久井での水源環境：水を育む県民集会に参加した。定例活動日の明日を控えて、帰ってもすぐ、出直さねばならないため高尾駅前で泊まった。目が覚めてT Vは、台風が接近して九州・四国では、暴風雨と報道している。天気予報では、関東地方は朝から雨。“雨でも休まず”が定着しているから「今日は、どうしょうかな～」の心配もないがやはり気には掛かる。

森には9時前、早目に着いた。雨は未だ。活動開始の定刻に参加者数を数えたら34名。気温と湿度は、急上昇中。

森林整備班は、崩落跡地に植林地の辛い・暑い・苦しい下草刈り。

19名参加。

汗は滴る息は上がる。何んでこんな苦しい事を一銭にもならず、頼まれもしないのにするのか。不思議な人々の集団である。他の仲間は、苗畑の下草刈りと炭窯班の煙突付け作業、お花畑整備。

午後からお花畑班は先月、開業したお花班の「ムササビ亭」を東海自然遊歩道の森の入り口に開店。何時も、ぞろぞろ通るハイカーの姿なし。台風接近の終日雨の予報なら、ハイカーの来ないのも当然。雨は未だ来ないが、暑さで早目に降りて来た森仲間が客となってくれて清水・丸茂仲間は有り難がっていた。蜂の被害なし。終礼・各班の作業総括の終わりになって雨がポツリと来た。電車に乗る頃は、ザー、ザー降り、帰宅時は雷鳴の嵐となった。人・もの・事、全てに感謝。



苗畑 下草を刈る：吉田さん

電車に乗る頃は、ザー、ザー降り、帰宅時は雷鳴の嵐となった。人・もの・事、全てに感謝。

● 活動報告2／9月19日（第三曜日）：里山交流

・快晴、気温高しの真夏日。マコトちゃん(5歳)、百合恵さん(12歳) 小倉さん家族含む、57人参加。

・森林整備班：間伐の季節に入る森林整備班は、21人参加の協力協約D地区の森。多分、一度も手の入っていない急斜面、30年生の杉植林地。

伐った木がまともに倒れてくれない「手間ヒマと危険の伴う困難な作業」が続く。最後までやり通せるかなあ～、の声に“馬鹿言んじゃないよ、継続が力じゃないんけ”と大分弁の園田総隊長。

・炭焼き班：「地球を救う炭焼き班の今日の仕事は窯出し、期待されたい」と岡班長の誘惑に誘われて6人が参加。

結果、改良窯のお陰でまともな竹炭出窯。速水仲間の言によると竹酢(ちくさく)液が驚くほど取れたそうだ。

1m³ の生木からはドラム缶1本の水が出る。



作業の指揮を執る大日向さん

だから、「森林は、緑のダム」と言う。

・養蜂班：憎っくき雀蜂退治など黒川仲間が黙々と蜜蜂の世話をしていた。嗚呼、それなのに、瞼(まぶた)を蜜蜂にやられて…、笑っていた。

・花畠班：「喫茶／ムササビ亭」開店の今日は快晴、下山帰りのハイカーご参んなれ…、とばかり手ぐすね引いて気合いが入っていた。

園田隊長が午後から呼び込みを「伊藤小夜子スピーカー」に強要していたが、結果は恥ずかしくて、余り役に立たなかった？。代わりを作業の終わった岡炭焼き班長が引き受けて高校生ハイカーを強引に呼び込んで最後は、炭焼き班に入ると約束させていた。

c f : 「喫茶／ムササビ亭」は、

何か可能性を期待させるものがある。「駅カドヤ会議」ならぬ「森の中／ムササビ会議」に発展しそうな…。通りすがり

のハイカーを巻き込んで森仲間が「お花畠ガーデン」で白熱の“ムササビ談義”を始めている。酒が飲めないので「カドヤ会議」バスの仲間も参加していた。



看板／清水さん作

● 頑張れ、神奈川県…、水源環境政策

わが国で初めての長期・大規模(20年・総額1200億円)の「水源環境の保全・再生」政策は平成12年、岡崎前知事が立ち上げて学者・学識者などで研究を進め、或いは県民聴講会を開いたり全国に呼び掛けたりし進めて来た。それを松沢現知事が引き継いでいる。昨年10月来、学者・学識者の提出した提言書を県は、全県22ヶ所で情報公開し、その他の集会など、この1年間に約40回もの「県民集会」で話しあっている。

今年7月からも「水を育む施策と税」の内容で「第2弾：県民集会」が開催されたが、相模原集会(8月27日)と最終回(9月3日)津久井会場に出かけた。相模原集会では、それまで不参加の森林現場を守る林務課には是非、出て欲しいと申し入れた。

津久井集会では、一杉企画部長と斎藤林務課長が回答者席におられたので申し出が聞き入れられたと思った。森林地区のここでは、さすがに質疑応答が白熱し最後、一杉企画部長の挨拶は…、「藤沢集会では埼玉から参加の方の質問で神奈川県は何んでこんな集会を繰り返すのかと聞かれ、私は“命の水を守るために水源環境問題”は、県民の皆さんとの合意なしには進められませんと答えました。この津久井会場の皆さん、県は皆さんとの間で真に納得行く政策を進めようとしています。どんな事でもご意見は大切にして全て県知事に報告しています。宜しくお願いします」であった。こんな徹底した県政の話し合いの場を他の地方自治体が実施した事が有るだろうか。自治省に聞いたらそんな情報は無いとの事であった。ガンバレ、神奈川県。

● 松沢知事のマニフェスト（政策宣言）

元三重県知事で現在、早大大学院：北川恭正教授の呼び掛けで「マニフェスト県政」を進める5知事（齋

県：上田知事、神奈川県：松沢知事、福井県：西川知事、岩手県：増田知事、佐賀県：古川知事）の施政中間評価会が開かれ聽講した。

国政では、党の合意を経ないと自分の主張を具現化できないが、地方自治ならそれが可能と「地方から国を変えよう」と活路を求めた40代中心の新進の知事のマニフェスト評価会で参加の五知事の共通の主張は、以下の通りで有った。

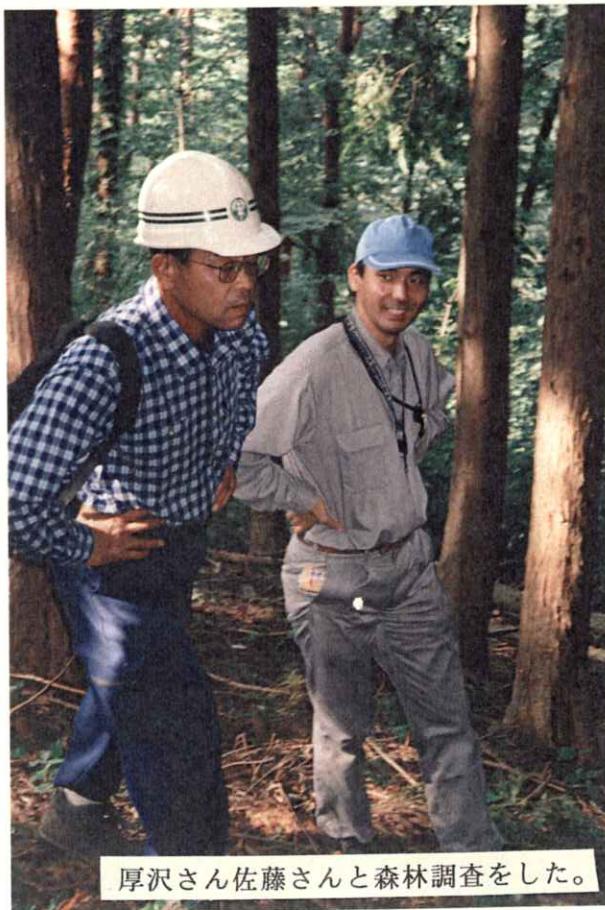
- 1)理念とビジョン（展望）を数値を示して県民に解りやすく伝える。
- 2)計画・経過・結果を情報公開して県民の参加と審判を受け、結果責任を追う。

県民との契約だと言う「マニフェスト宣言」の具現化は夫々、抵抗勢力に叩かれるているようだ。神奈川県：松沢知事の“マニフェスト：政策宣言”の骨格は以下の通り。

- 3つの基本方向：1)生活者本位の県政 2)地域主権の県政 3)21世紀を開く県政
- 5つの日本一目標：1)NPO日本一 2)ベンチャー日本一 3)水源環境日本一 4)子育て・教育日本一 5)安全日本一
- 51の戦略プロジェクト：51項目から成る。例えば、事業47水環境保全対策、事業49上流と下流の住民で支える水源地域づくり

施政中間評価会は、行政学専門家が評価は、点数の辛すぎた埼玉の上田知事を除いて各知事、80点以上が付いていた。松沢知事は、81点であったが評価講評の中で「県民主体の県政は、問題意識が非常に高い。議会もマニフェストによって、議論が活発になったと言えるが、マニフェストで示された方針（理念・ビジョン）を巡っての議論でない事が問題である」とあった。

●比較すべくもないカ。



厚沢さん佐藤さんと森林調査をした。

素人の何も無いところから、森林NPOが“森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない”と旗幟（理念）を掲げ、森をつくる／FSC活動、森をいかす／FCC事業のビジョンを示して7年間、「暴風雨の嵐でも休まず…、楽しく・無理せず・楽しく・休まず・ボチボチと…」活動を継続して来た。

いろんな事を試行して昨年来、“負の遺産を子孫に残さない具現化”のために森林資源の活用の途を探っている。取り分け「流域材活用班」と称して荒廃の進む民有林材を生かす方法はないかと「一介のNPOにしては無理・無謀」と言われもあるが、それが無理でない状況になりつつある。

黒川教授のご指導を得て上流・中流・下流の人々の連携する「森林と都市生活者をむすぶ活動・協議会（研）」が動き出して先ず、500立米民有林材が可能となりつつある。県が情報公開した「水源森林保全・再生20事業」の内、事業7、森林の担い手事業、事業8、森林資源の利用促進策、に連動出来れば良いと思い準備を進めている。

「素人がそんな事が出来るか。森林作業は危ない、やめ

ろ」と言わされているが、何も自分達だけで作業をすることは、言っていない。いろんな段階でプロの手と知恵を借りる。

9月21日、黒川教授を津久井行政センターの厚沢さんと園田・石村が案内して津久井地区の民有林4ヶ所を現地・視下調査した。黒川教授の判断は「未だ、間に合う。品質も通用する、引き続き調査して材出荷に繋げる様に…」のご指導であった。組織を横に繋ぐ事こそ、森林NPOの役割。

● 環境省自然環境局の報告 … 自然再生に向けた各地取り組み

環境省自然環境局は、環境に取り組んでいる全国4、720団体の内、13団体を選び森林では愛知県の「穂の国森づくりの会」と当会「NPO緑のダム北相模」の2団体を取り上げている。

当会関係の報告は、20頁。抜き刷りを30部、準備した。欲しい仲間は事務局に申し入れられたい。来年は何んでも、環境省が当会を「環境教育実践の場」として検討する話がち上がってきている。こんな事になったのも園田総隊長を頭に森林整備班、篠田指導員の生態系調査班、斎藤学校長の緑のダム体験学校班他、様々な活動を引っ張ってくれている森仲間の実践の成果に他ならない。



これがプロ(さとう幹)の仕事。だが、こんな良い木が捨間伐とは勿体ない。

… 臨時活動のお誘い …

◎ 10月の臨時活動、10月11日の祭日：「高尾から小原まで甲州古道・小原本陣の森視察」

加藤(?)さんが立ち上げ、斎藤さんが引き継いだ甲州古道復活は、県が正式に地域活性化政策に取り入れる事を決定したので相模湖町とも相談しながら進めている。斎藤さんに案内して貰う事にした。また、砂防ダム工事のため一時中断しているが清流の大久保沢を挟んで馬蹄形の「小原本陣の森」は、どんな森かを案内する。明王峠から孫山からの本陣尾根から見下ろす相模湖・相模渓谷、遠景に富士山、は素晴らしい。JR高尾駅前9時00分集合。車は駅前駐車場に預ける。

◎ 10月31日(祝日) 臨時の里山交流活動：若柳・嵐山の森。

活動に快適な季節に成った事と「神奈川県知事が“話し合おう”と相模湖交流センターに見える事から臨時活動を提案する。森仲間の皆さん、こんな機会は、滅多にない事だから積極的に参加して欲しい。

伐木／50歳・男性。当日、被災者は同僚2人でチェンソーによる間伐作業に従事していた。

被災者が伐倒した木が林道に倒れてしまったので通行障害にならないように取り除き作業を行ったあと、次の間伐木の受口切りを行っていたところ、同僚Aが伐倒した間伐木（胸高直径31cm、樹高23.7m）が被災者の方向に倒れてきて激突した。同僚Aは、伐倒の際、灌木の陰で被災者が良く見えなかった。

甲陽鎮撫隊と小原宿

1868年（明治元年）3月1日に新宿を出発した甲陽鎮撫隊は、1日目府中宿、2日目に与瀬宿に宿泊しました。小原宿の亡古老の話によると、小仏峠を越えて来た甲陽鎮撫隊の近藤勇は、小原宿本陣の街道向いの大きな茅葺き屋根の馬方宿の湊屋に立ち寄り、宿主榎本与兵衛にこんな相談を持ち掛けたようです。

近藤勇は、要害堅固の小仏峠を控えている小原宿で、東征軍の進撃を撃退したいと言う話を湊屋与兵衛に言ったそうです。与兵衛は北は、山が連なる大きな久保地（久保は大きな山の斜面を言います）南は海拔124m k相模川から200mの宿並の76mの化峡の河岸段丘崖に挟まれたせまい地形の上地防戦しようのない場所です。それよりは、険しい甲州の笛子峠を越えて柏尾あたりの方が地の利ははるかに良いと進言この話により徳川幕府が街道として設置した甲州道中小原宿は、「戦火から救われた」そうです。

前回、記述した如く、江戸から6日を要して笛子峠を越え甲府を臨む柏尾で対峙した近藤勇率いる120名（80名は逃亡）の甲陽鎮撫隊に比し3月3日に諏訪を出発した板垣退助の東征軍は5日に早くも甲府を手中におさめた。この時世を読む彼我の違いと軍勢の総力の違いは歴然とし、甲陽鎮撫隊は幻ときたのでした。

● 甲陽鎮撫隊は何故、派遣されたか

幕府は前將軍徳川慶喜を江戸から甲府城へ移す事を大義名分にして旧新撰組を甲陽鎮撫隊として先発させた。実は、勝海舟は江戸を無血開城し、江戸を戦火から救うための方策として、官軍にたいする徹底的な交戦派の新撰組をおさえるためであったと言われる。

● 何故、甲陽鎮撫隊は遅れを取ったか

新撰組から甲陽鎮撫隊となり3月1日、新宿を出発。大久保剛と名前を変えた近藤勇の故郷府中宿に宿泊大歓迎を受ける。2日目は内藤隼人と名を変えた土方利蔵り日野宿で歓迎を受け春日隊百名を加えた。この無駄足があと、一日早ければと躊躇を嘗む結果となった。更に幕府から支給を受けた大砲など新兵器を使いこなせなかったとも言われる。

1) 10月2日(第一土曜日) 森林整備に注力。

2) 10月11日(第一日曜日) 甲州古道・小原
本陣の森視察

3) 10月17日(第三日曜日) 里山交流

4) 10月31日(第五日曜日) 里山交流
終了後；知事と話そうミーティング

* HP : <http://www008.u.p.p.s-p.net.jp/kitasagami>

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと…

そして、沢山のご意見、参加下さい。

名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人様のダム北相模/森林部会)

事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9 石村

T & F 03-3411-1636

協働団体／セブン－イレブンみどりの基金

支援団体：WWFジャパン、損保ジャパン環境財団、イオン財団、日本財団、住宅生産団体連合会